

南アフリカ 柑橘類産業は今シーズンに期待

FreshPlaza 2023年4月11日

南部アフリカ柑橘類生産者協会のジャスティン・チャドウィックCEOによると、昨年「災害急にひどい年」を経験した南アフリカの柑橘類産業は、今年はより前向きなシーズンを望んでいる。(以下「」は同CEOの話)

「昨年は運賃が通常2倍で、これは生産者のコストの30~40%を占めていたため、収益に大きな打撃を与えた。またEUは、我々が果実を海上輸送している最中に、フォールスコドリグモス(蛾の一種)に関する規則を変更したため、生産者はそれに従うことができなかった。このため輸出業者は、EUで通関するために3億ランド(当時のレートで約25億円)の余分な費用を支払った。市場価格はどうか大丈夫であったが、これらの追加費用をすべて賄うには十分ではなかった。さらに、港湾の運営効率は相変わらず良いとは言えない。」

チャドウィック氏は、EUが導入したそれらの新しい規制には科学的根拠がなく、2022年に暫定措置が導入されて以来1回も害虫が検出されていないことから、EUに対しこれを再検討するよう求めていると述べた。要件を満たすためには、14億ランド(約100億円)の投資を行う必要があるが、出荷シーズンは数週間後に始まるため、これは不可能である。この影響で2023年のEU向けオレンジ輸出が20%減少する可能性がある。

「スペイン産柑橘が南アフリカ産に脅かされることはない。我々が彼らと同時期に市場に出荷することすらない。南アフリカ産を輸入することは、一年中売場に柑橘類があることを保証するものであり、そしてそれは誰にとっても良いことである。」

柑橘類の生産・出荷

最初のレモンは1月に収穫され、国の最北部では降雨により梱包数量が短期間落ち込んだが、今シーズンの出荷量全体には影響しなかった。若い果樹園からの出荷が始まるため、出荷量は昨年よりわずかに増加すると見られる。

グレープフルーツについては、生産者の収益が減少しており、加工仕向用の果実を国内でさばくことを検討しているため、輸出量は昨年よりも減少すると見込まれる。

オレンジについては、ネーブルはわずかに減少するが、バレンシアは増加すると見られる。ソフト柑橘類の推定値はおって4月に発表されるが、当初の推定値はウンシュウミカンの減少を反映している。

電力負荷低減策

電力負荷低減策(計画停電)は生産者にとって災難であり、灌漑から梱包まですべてが影響を受けている。

「生産者は灌漑のために電気を必要としており、代替手段はない。彼らはまた、梱包作業を電気に依存しており、一貫したコールドチェーンの維持も必要である。生産者らは安定した電力供給なしには立ち行かないため、発電機を購入し、太陽光発電システムに投資している。しかし、果実が一度コールドチェーンに入り、倉庫や港に運ばれた時に起こることを生産者はコントロールできない。」

輸出市場

中国への柑橘類の輸出は毎年増加している。ロシアも南アフリカ産柑橘類の良い市場であるが、ロシア向けの貨物運賃は依然として非常に高い。インドは大きな可能性があり、日本*やベトナムなどの他の市場へのアクセスが期待されている。

執筆者: ニコラ・マクレガー

*: 農林水産省植物防疫所の「輸入条件に関するデータベース」(<http://www.pps.go.jp/eximlist/Pages/exp/condition.xhtml>)によると、南アフリカ産オレンジやグレープフルーツは植物検疫上の条件付きで日本に輸入できますが、マンダリンやレモンは輸入できません。